

平成30年度 第2回「在職者のための定着支援研修会」が終了しました

当センターでは、企業で働く障がいのある方のモチベーションに働きかけることや、社内の人材育成のきっかけにさせていただき、障がい者雇用に取り組まれている企業とタイアップしながら、定期的に研修会を開催しております。障がいのある方同士で意見交流をすることにより、他者の意見をもらうことが出来たり、同じ悩みを分かち合える場にもなっています。

また、企業担当者と共に研修に参加することで、本人の新たな一面を発見することや、会社では言いにくい悩みを知ってもらうこと、その後の円滑なコミュニケーションを行う始まりにもつながっています。

その成果として、会社内での社員同士の関わりを持つきっかけが出来たり、本人の成長やモチベーション向上に結びついているように感じます。

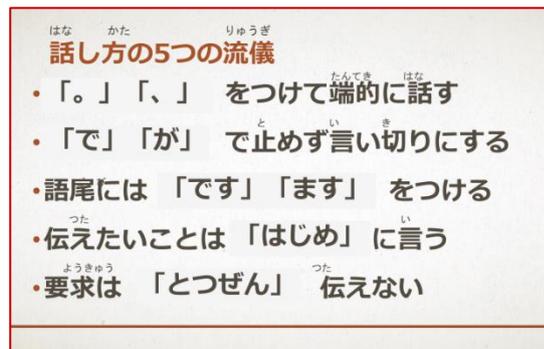
第2回目は、9月13日（木）に「コミュニケーション向上のための～誤解を受けない言葉遣いと話し方～」をテーマとして研修会を開催しました。



普段、私たちは自分の持っている「言葉」を使って話しています。もちろん、言葉だけがコミュニケーションではなく、非言語コミュニケーションと言われる表情や身振り手振り、声のイントネーション・アクセント等も意識をしながら会話をしています。働くにあたり日常生活だけではなく、上司や先輩・後輩・同僚の方と触れ合う中で、伝える相手の立場に合わせた言葉を使っていくことが求められると思います。そのため今回は、「社会人として丁寧な言葉遣いを知ろう！」「誤

解を受けない話し方のコツを学び、実践しよう！」を研修のポイントとし、日々自分の使っている言葉を振り返り、より相手に伝わりやすい話し方を学んでいきました。

前半は講義形式で、丁寧な言葉遣いの基本的なルールと、相手により伝わりやすくなるポイントとして「話し方の5つの流儀」を確認していきました。この5つを意識することで、自分の伝えたいことがぼやけずに伝わりやすくなり、注目すべき点を押さえることで自分の言いたいことが理解されやすくなるということを共有することが出来たと思います。



後半は、ロールプレイとグループワークを行う班に分かれて、前半の講義を深めていきました。

ロールプレイでは、前半の振り返りを行いながら、どのような話し方が相手に伝わりやすいのかを演習を通して確認しました。①話す時の語尾に気を付けること②話しかける前に相手の名前を呼ぶ等、講義で学んだことをグループの中で再確認したり、働いている会社での出来事を思い出しながらかえてもらい、グループごとに発表をしてもらいました。発表の後には、5つのことを明日から意識するこ

とは難しい部分もあると思いますが、「いつもより」笑顔で仕事をしたり、相槌を打ったり、大き目の返事をしたり、元気な声で挨拶をする等のポイントもお伝えしました。

グループワークでは、事例を通して「自分だったらどうするか」を考えてもらいました。

参加者から出た意見としては、「誰かに相談をする」「話し合う場を設けてもらう」というような一人で抱え込むのではなく、他者に相談するという意見が多く聞かれました。

また、「なぜ?」「どうして?」を自分なりに分析し、自分自身を振り返ることも大切という意見もありました。グループの中で、全ての方とコミュニケーションが上手くいくとは限らないのと、苦手なタイプの方には適度な距離感を保つことが必要ということや、社会人として最低限のマナーを守るということが大切だということを共有しました。



相手や場面、場合に合った話し方を知ることで、相手に与える印象が良くなったり、自分の気持ちを聞いてもらいやすくなるきっかけになると思います。今回の研修では、敬語を完璧に使いこなすことを目的とするのではなく、今まで知らなかったことや改めて学んだことを、意識するだけでも身につけていくのではないかというヒントをお伝えしました。自分自身の話し方や伝え方と相手を思いやる気持ちを見直すことは、人間関係での悩みやつまづきが解消されたり、働くことへの意識を向上するための1つでもあると感じております。

今後も障がいのある方向けの人材育成に関する研修会や余暇の活動を企画して参ります。この研修を通して、健康的に働くことや自分らしく充実した生活を送れるように、サポートをしていきたいと思っておりますので、是非趣旨をご理解いただきご参加下さい。ご協力の程、よろしくお願い致します。